

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ブワイガニ

学名 *Chionoecetes opilio*

系群名 北海道西部系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明(京都府沖では、13～15年と推定されている)
成熟開始年齢: 不明
産卵期・産卵場: 不明(本海域内における再生産の可能性が高い)
索餌期・索餌場: 不明、漁場は水深400m前後の海域
食性: 成体は主に甲殻類や二枚貝、クモヒトデ類で、この他に魚類、イカ類、ゴカイ類、巻き貝、ツノガイ類など
捕食者: 不明

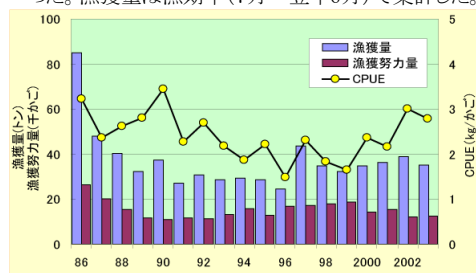


漁業の特徴

北海道西部海域でのブワイガニは、主にかにかご漁業で漁獲されている。かにかご漁業は、1990年の省令改正により、知事許可漁業とすわいがかにかご漁業とべにすわいがかにかご漁業に区分され、すわいがかにかご漁業の操業期間が11月1日～翌年4月30日とされた。現在、すわいがかにかご漁業の許可隻数は3隻である。操業はべにすわいがかにかご漁業との併用で行われている。雄の甲幅10cm未満は採捕禁止(省令は9cm)という自主規制のほか、自主的な保護区が設定されている。

漁獲の動向

1986年以降の北海道西部海域におけるブワイガニの漁獲量は、1990年頃まで減少した後、1997～2002年は30～40トンで比較安定している。2003年度の漁獲量はかにかご漁業によるものが34トン、刺し網漁業による混獲が1トンであった。漁獲量は漁期年(7月～翌年6月)で集計した。



資源評価法

かにかご漁業の漁獲量とCPUEから資源の水準と動向を判断した。水準は、1986～2002年度のCPUE平均値を100とし、 ± 20 を中位、それ以下を低位、それ以上を高位として、2003年度のCPUEから判断した。動向については、1999～2003年度の過去5年間のCPUEの傾向から判断した。

資源状態

漁獲量は、1986年度以降減少傾向を示していたが、1990年度以降は30～40トンで安定して推移している。CPUEは、1999年度以降増加傾向を示している。資源の水準は、2002年度までのCPUE平均値を100とすると、2003年度は117となったため、中位と判断した。動向は、過去5年間のCPUEの傾向から増加と判断した。

管理方策

現状の努力量が、本海域でのブワイガニへ与える影響は大きくないと考えられる。また、極端に漁獲努力が増加するとは考えにくい漁業形態であり、甲長制限および保護区の設定等の自主規制が行われているため、資源管理を継続するとともに、資源の動向に合わせた漁獲を継続することで資源は維持できると考えられる。このため、2003年度の漁獲量(Ccurrent) $\times \gamma$ をABClimitとした。 γ は過去7年間に想定されるCPUEの直線的な増加傾向が2005年度まで継続すると仮定し、その回帰線上の2003年度と2005年度の比から1.1と算定した。ABCtargetは、ABClimit $\times \alpha$ とし、安全率 α は標準値の0.8とした。



	2005年漁獲量	管理基準	管理の考え方	F値	漁獲割合	評価
ABClimit	38トン	1.1Ccurrent	資源の動向に合わせた漁獲の継続	-	-	-

ABCtarget	31トン	0.8ABClimit	上記のために予防的措置 をとる	-	-	-
-----------	------	-------------	--------------------	---	---	---

資源評価のまとめ

- 2003年度の漁獲量は、2002年度より若干減少
- 近年の漁獲努力量は減少、CPUEは増加傾向を示す
- かにかご漁業による漁獲量とCPUEから資源状態を評価

管理方策のまとめ

- 資源の動向に合わせた漁獲を継続することで資源を維持
- 許可条件・自主規制等の遵守による資源管理
- 資源管理の継続

資源評価は毎年更新されます。